

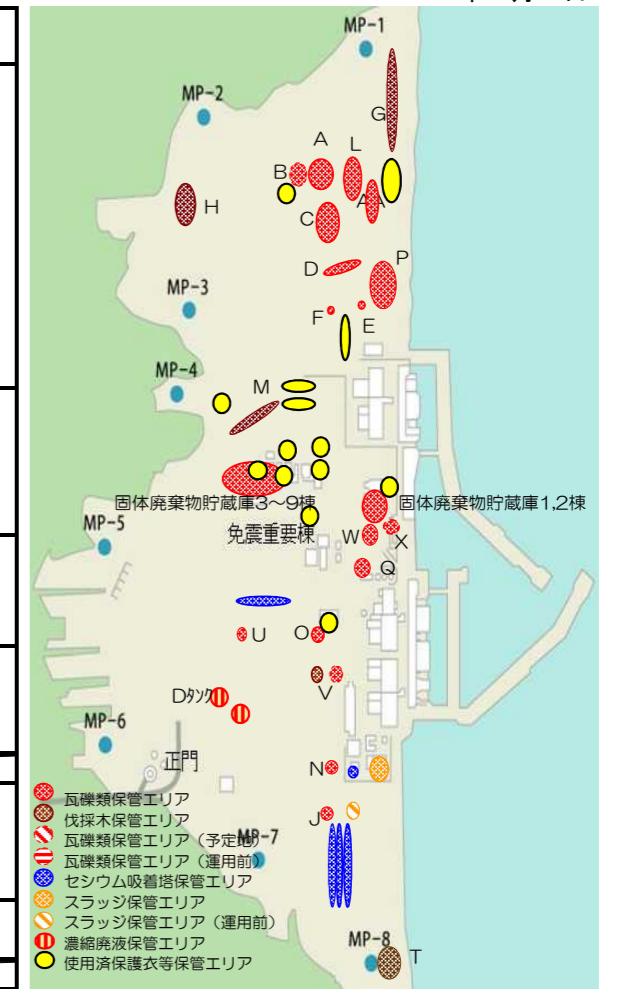
放射性廃棄物処理・処分 スケジュール

分野名	括り	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定	9月		10月				11月				12月		1月	備考			
				20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5			12		
固体廃棄物の保管管理、処理・処分計画	2. 保管適正化の推進	1. 発生量低減対策の推進	持込抑制策の検討 (実績) ・足場材貸出による再使用運用中	現場作業	足場材貸出による再使用運用中															・2017年3月27日：足場材貸出運用開始
		固体廃棄物貯蔵庫の設置	(実績) ・固体廃棄物貯蔵庫第9棟運用中	現場作業	固体廃棄物貯蔵庫第9棟運用中															・2018年2月：固体廃棄物貯蔵庫第9棟運用開始
		大型廃棄物保管庫の設置	(実績/予定) ・建築工事(外部足場、基礎鉄筋組立、基礎コンクリート打設、鉄骨建方等)	現場作業	建築工事(外部足場、基礎鉄筋組立、基礎コンクリート打設、鉄骨建方等)															・基礎工事(外部足場、鉄筋組立、コンクリート打設等) 2020年6月1日～ ・鉄骨工事 2020年11月9日～(予定) ・鉄骨・外壁・屋根工事 工程調整中
		覆土式一時保管施設3,4槽の設置	(実績/予定) ・覆土式一時保管施設3,4槽運用中 ・雨水浸透防止追加対策工事	現場作業	覆土式一時保管施設3,4槽運用中 雨水浸透防止追加対策工事															・2019年4月：覆土式一時保管施設3,4槽運用開始 ・2020年3月～2020年11月：雨水浸透防止追加対策工事
		一時保管エリアの追設/拡張	(実績/予定)	検討・設計																
		雑固体廃棄物焼却設備	(実績) ・処理運転 (A・B系)	現場作業	【A系】 処理運転 <b>実績反映</b> 【B系】 処理運転 B系不具合に伴う処理運転停止 処理運転再開時期は、原因調査の結果を踏まえて検討															【A系】 ・温度計の損傷原因について調査継続。 ・2020年9月30日：B系二次系燃焼器バーナ取付座から蒸気状の気体が確認されたことを受け、状態確認のため処理運転停止。処理運転再開時期は、原因調査の結果を踏まえて検討。 【B系】 ・温度計の損傷原因について調査継続。 ・漏えいに至った排ガス補助フロア出口排ガスラインのフランジ部の締付ボルトの緩みの原因について調査継続。 ・2020年9月25日：二次系燃焼器バーナ取付座から蒸気状の気体が確認されたため処理運転停止。処理運転再開時期は、原因調査の結果を踏まえて検討。
		増設雑固体廃棄物焼却設備	(実績/予定) ・建物付帯設備(電気・消防)工事 ・土木工事(道路・雨水側溝) ・系統試験	現場作業	建物付帯設備(電気・消防)工事 土木工事(道路・雨水側溝) 系統試験															・2020年11月：焼却炉本体の乾燥焚(炉内火入れ) ・2020年12月～2021年1月：コールド焼却試験 ・2021年3月：ホット焼却試験 ・2021年3月：竣工予定
		除染装置(AREVA)スラッジ	(実績/予定) ・スラッジ対処方法検討 ・建屋内除染	検討・設計 現場作業	スラッジ対処方法検討 建屋内除染															・建屋内除染 2019年5月7日～2021年2月予定
		ALPSスラリー安定化設備	(実績/予定) ・安定化設備の設計検討	検討・設計	安定化設備の設計検討															
		固体廃棄物の保管管理、処理・処分計画	3. 瓦礫等の管理・発電所全体から新たに放出される放射性物質等による敷地境界線量低減	(実績/予定) ・一時保管エリアの保管量確認/線量率測定および集計 ・ガレキ等の将来的な保管方法の検討 ・線量低減対策検討 ・ガレキ・伐採木の保管管理に関する諸対策の継続	検討・設計	ガレキ等の将来的な保管方法の検討														
検討・設計	線量低減対策検討																			
現場作業	一時保管エリアの保管量確認/線量率測定および集計																			
現場作業	ガレキ・伐採木の保管管理に関する諸対策の継続																			
現場作業	【研究開発】固体廃棄物のサンプリング・保管管理																			
4. 固体廃棄物の性状把握	(実績/予定) ・【研究開発】固体廃棄物のサンプリング・保管管理 ・【研究開発】廃棄物試料の分析(現場：JAEA東海等)	現場作業	【研究開発】廃棄物試料の分析(現場：JAEA東海等) 瓦礫、汚染水(滞留水、処理水、建屋スラッジ)、水処理二次廃棄物(吸着材)(α核種、β核種、γ核種)															・多核種除去設備の運転状況に応じて順次試料を採取 ・2020年9月30日：分析試料(処理水及び建屋スラッジ)の輸送を実施 ・瓦礫：覆土瓦礫を分析中。1号機周辺瓦礫、3号機原子炉建屋内瓦礫類のデータを取り纏め。 ・汚染水：建屋滞留水を分析中。 ・水処理二次廃棄物：ALPS吸着材を分析中。 ・これまでの分析結果は以下のウェブページにまとめられている <a href="https://fukushima.jaea.go.jp/hairo/work/tech-info.html">https://fukushima.jaea.go.jp/hairo/work/tech-info.html</a>		
		現場作業	第1棟建屋現地工事															【施設管理棟】 ・2018年3月15日：運用開始【第1棟】 ・2021年6月：竣工予定 2020年9月30日受電後の単体作動試験、総合機能試験の内容及び工程の明確化に伴い、竣工予定を2020年度末頃から2021年6月に具体化。		
5. JAEA分析・研究施設の整備(施設管理棟、第1棟、第2棟)	(実績/予定) ・第1棟建屋現地工事 連絡通路等工事(連絡通路内装工事、1,2,3階ダクト工事等) 主要内装設備等工事(鉄セル等の搬入・据付等)	現場作業	第1棟建屋現地工事																	

### 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2020.9.30時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア境界空間線量率(mSv/h)	保管量	前回集約からの増減 <sup>※1</sup> (2020.8.31 - 2020.9.30)	変動理由 <sup>※2</sup>	エリア占有率	保管量 <sup>※3</sup> /保管容量(割合)	トピックス
瓦礫類 屋外集積 (0.1mSv/h以下)	A	屋外集積	0.25	300 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	0%	219500 / 270200 (81%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フランジタンク解体片</li> <li>2020年9月末時点でコンテナ1,074基保管。</li> <li>エリアP1コンテナ数：627基 (2015年6月15日～)</li> <li>エリアAAコンテナ数：447基 (2018年3月15日～)</li> <li>・エリアAは1～30mSv/hの瓦礫類を仮設集積中。これら瓦礫類を固体庫に移動後、低線量率瓦礫類一時保管エリアとして使用予定。</li> <li>・エリアCのエリア整理により、保管容量(3,700m<sup>3</sup>)増加。(2020年7月)</li> </ul>
	B	屋外集積	0.01	5,300 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	⑤	99%		
	C	屋外集積	0.01未満	65,700 m <sup>3</sup>	+1,500 m <sup>3</sup>	①②⑤	98%		
	F2	屋外集積	0.01未満	6,400 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	85%		
	J	屋外集積	0.01	6,200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	78%		
	N	屋外集積	0.01未満	9,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	96%		
	O	屋外集積	0.01未満	44,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	86%		
	P1	屋外集積	0.01未満	60,200 m <sup>3</sup>	+1,300 m <sup>3</sup>	①②④	94%		
	U	屋外集積	0.01未満	700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	100%		
	V	屋外集積	0.01	6,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	100%		
AA	屋外集積	0.01未満	15,000 m <sup>3</sup>	+300 m <sup>3</sup>	⑥	41%			
瓦礫類 シート養生 (0.1～1mSv/h)	D	シート養生	0.01未満	2,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	58%	42900 / 71000 (60%)	
	E1	シート養生	0.02	14,400 m <sup>3</sup>	微増	①	90%		
	P2	シート養生	0.01	5,800 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	64%		
	W	シート養生	0.03	12,200 m <sup>3</sup>	微増	①⑩	42%		
瓦礫類 覆土式一時保管施設、 容器(1～30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	16,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	100%	17900 / 24600 (73%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な瓦礫類は、1～4号機工事等で発生した瓦礫類。</li> <li>・エリアAの運用変更により、保管容量(7,100m<sup>3</sup>)減。(2020年1月)</li> </ul>
	E2	容器 <sup>※4</sup>	0.01未満	1,200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	68%		
	F1	容器	0.01未満	600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	99%		
Q	容器	0.04	0 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	0%			
瓦礫類 固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	容器 <sup>※4</sup>	0.01	22,800 m <sup>3</sup>	+200 m <sup>3</sup>	①⑤	48%	22800 / 48000 (48%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な瓦礫類は、1～4号機工事等で発生した瓦礫類。</li> </ul>
合計(ガレキ)				303,200 m <sup>3</sup>	+3,400 m <sup>3</sup>	—	73%		
伐採木 屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	屋外集積	0.01未満	25,300 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	63%	97100 / 134000 (72%)	
	H	屋外集積	0.01未満	31,700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	74%		
	M	屋外集積	0.01未満	39,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	88%		
	V	屋外集積	0.01	400 m <sup>3</sup>	微増	⑦	7%		
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	26,200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—		
T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	94%			
合計(伐採木)				134,400 m <sup>3</sup>	微増	—	77%		
保護衣 屋外集積	容器	0.02	29,700 m <sup>3</sup>	-2,500 m <sup>3</sup>	⑫	44%	29700 / 68300 (43%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用済保護衣等焼却量 8,823t (2020年9月末累積)</li> <li>・焼却灰(プラスチック含む)のドラム缶数 2,186本 (2020年9月末累積)</li> </ul>	
合計(使用済保護衣等)				29,700 m <sup>3</sup>	-2,500 m <sup>3</sup>	—	44%		

※1 100m<sup>3</sup>未満を端数処理しており、微増・微減とは50m<sup>3</sup>未満の増減を示す。  
 ※2 主な変動理由：①1～4号機建屋周辺関連工事 ②タンク関連工事 ③敷地造成関連工事 ④構内一般廃棄物 ⑤エリア整理のための移動  
 ⑥フランジタンク除染作業 ⑦伐採木受入 ⑧港湾関連工事 ⑨水処理設備関連工事 ⑩砕石取り出し ⑪5,6号機建屋周辺関連工事 ⑫焼却運転  
 ※3 端数処理で100m<sup>3</sup>未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。  
 ※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。



### 水処理二次廃棄物の管理状況(2020.10.1時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回集約からの増減 (2020.9.3 - 2020.10.1)	保管量/保管容量(割合)	トピックス
水処理二次廃棄物 使用済吸着塔 保管施設		セシウム吸着装置使用済バessel	779 本	0 本	4934 / 6372 (77%)	
		第二セシウム吸着装置使用済バessel	238 本	+4 本		
		第三セシウム吸着装置使用済バessel	2 本	0 本		
		多核種除去設備等保管容器	1,827 基	+12 基		
		高性能多核種除去設備使用済バessel	74 本	0 本		
		多核種除去設備処理カラム	17 塔	0 塔		
		モバイル式処理装置等使用済バessel及びフィルタ類	214 本	0 本		
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	422 m <sup>3</sup>	+1 m <sup>3</sup>	422 / 700 (60%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滞留水処理に伴う除染装置の運転計画は無く運転によって新たに廃棄物が増える見込みは無い。</li> <li>・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。</li> <li>・プロセス建屋の除染作業に伴い廃スラッジ貯蔵施設の水位が上昇。</li> </ul>	
濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,379 m <sup>3</sup>	-23 m <sup>3</sup>	9379 / 10300 (91%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし)</li> <li>・水位計0%以上の保管量：9,279 [m]</li> <li>・タンク底部～水位計の保管量(DS)：約100[m]</li> </ul>	

